

## 平成20年度第3四半期報告の概要

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1. 主要収支の状況                         | 2 |
| 2. 主要業績の状況                         | 3 |
| 3. 資産・財務の健全性の状況および健全性向上に向けた取組み     | 4 |
| (1) 健全性指標の状況（ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額） | 4 |
| (2) 有価証券評価損および含み益の状況               | 5 |
| (3) さまざまなリスクに対応するための内部留保等          | 6 |

### <主要指標>

|                 |           |                     |
|-----------------|-----------|---------------------|
| ・ 保険料等収入        | ・ ・ ・ ・ ・ | 19,066億円            |
| ・ 基礎利益          | ・ ・ ・ ・ ・ | 2,535億円             |
| ・ 経常利益          | ・ ・ ・ ・ ・ | 306億円               |
| ・ 四半期純剰余        | ・ ・ ・ ・ ・ | 955億円               |
| ・ ソルベンシー・マージン比率 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1,091.5%            |
| ・ 実質純資産額        | ・ ・ ・ ・ ・ | 31,947億円            |
| ・ 株式含み損益ゼロ水準    | ・ ・ ・ ・ ・ | 6,900円程度（日経平均株価ベース） |
| ・ 一般勘定資産全体の含み益  | ・ ・ ・ ・ ・ | 12,869億円            |
| ・ 時価のある有価証券の含み益 | ・ ・ ・ ・ ・ | 7,949億円             |
| うち国内株式の含み益      | ・ ・ ・ ・ ・ | 4,529億円             |

# 1. 主要収支の状況

- ・ 保険料等収入は19,066億円、保険金等支払金は17,715億円。
- ・ 資産運用収益は4,347億円、資産運用費用は5,441億円。
- ・ 基礎利益は2,535億円と安定的な収益力を確保。
- ・ 経常利益は306億円。第3四半期純剰余は955億円。

## ○主要収支項目

(単位：億円)

|                     | 平成20年度<br>第3四半期累計期間 |
|---------------------|---------------------|
| 経常収益                | 27,816              |
| 保険料等収入              | 19,066              |
| うち個人保険・個人年金保険       | 11,813              |
| うち団体保険・団体年金保険       | 6,860               |
| 資産運用収益              | 4,347               |
| うち有価証券売却益           | 556                 |
| その他経常収益             | 4,403               |
| うち危険準備金戻入額          | 1,775               |
| 経常費用                | 27,510              |
| 保険金等支払金             | 17,715              |
| うち解約返戻金             | 3,798               |
| 責任準備金等繰入額           | 8                   |
| 資産運用費用              | 5,441               |
| うち有価証券売却損           | 962                 |
| うち有価証券評価損           | 2,882               |
| 事業費                 | 2,419               |
| その他経常費用             | 1,924               |
| 経常利益                | 306                 |
| 特別利益                | 826                 |
| 価格変動準備金戻入額          | 823                 |
| 特別損失                | 83                  |
| 法人税及び住民税(法人税等調整額含む) | 94                  |
| 四半期純剰余              | 955                 |

明治安田チャレンジプログラムの推進等により、1兆9,066億円を確保。

資産・財務の健全性向上のため、時価が帳簿価額の30%以上下落した株式について、すべて減損処理を実施し、国内株式の評価損を1,910億円計上。  
→詳細P5ご参照。

予定利率リスクに対応する危険準備金1,696億円(法定積立限度に連動する部分を含め全体では1,775億円)、価格変動準備金823億円、合計2,519億円(同2,599億円)を活用。→詳細P6ご参照。

## ○基礎利益

(単位：億円)

|      | 平成20年度<br>第3四半期累計期間 |
|------|---------------------|
| 基礎利益 | 2,535               |

厳しい環境下、2,535億円と安定的な収益力を確保。

### <保険料等収入>

保険料等収入とは、ご契約者から払い込まれた保険料による収益で、生命保険会社の収益の大部分を占めています。

### <基礎利益>

基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表わす指標です。

※基礎利益から、有価証券等の売却損益や評価損、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した最終的な剰余を、事業年度末決算において定款に従い配当としてご契約者に還元しています。

## 2. 主要業績の状況

- ・ 新契約年換算保険料（個人保険・個人年金保険）は764億円。
- ・ 保有契約年換算保険料（個人保険・個人年金保険）は1兆6,984億円。
- ・ 解約・失効率（個人保険・個人年金保険）は4.91%。

### ○新契約

（単位：億円、千件）

|                        | 平成20年度<br>第3四半期累計期間 |
|------------------------|---------------------|
| 新契約年換算保険料（個人保険・個人年金保険） | 764                 |
| うち第三分野                 | 207                 |
| 新契約高（個人保険・個人年金保険）      | 23,661              |
| 新契約件数（個人保険・個人年金保険）     | 724                 |

### ○保有契約

（単位：億円、千件）

|                         | 平成20年度<br>第3四半期会計期間末 | 平成19年度末   |
|-------------------------|----------------------|-----------|
| 保有契約年換算保険料（個人保険・個人年金保険） | 16,984               | 17,315    |
| うち第三分野                  | 3,393                | 3,386     |
| 保有契約高                   | 2,260,214            | 2,344,349 |
| 個人保険・個人年金保険             | 1,196,451            | 1,268,320 |
| 団体保険                    | 1,063,763            | 1,076,029 |
| 保有契約件数（個人保険・個人年金保険）     | 10,656               | 10,858    |

### ○解約・失効の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円、%）

|             | 平成20年度<br>第3四半期累計期間 |
|-------------|---------------------|
| 解約・失効年換算保険料 | 688                 |
| 解約・失効高      | 62,302              |
| 解約・失効率      | 4.91                |

### ○総合継続率の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：%）

|           | 平成20年度<br>第3四半期累計期間 |
|-----------|---------------------|
| 4月目総合継続率  | 97.5                |
| 13月目総合継続率 | 89.3                |
| 25月目総合継続率 | 76.7                |

（注）総合継続率は、契約高ベースにて算出しています。

### ○団体年金保険の受託資産残高

（単位：億円）

|                      | 平成20年度<br>第3四半期会計期間末 | 平成19年度末 |
|----------------------|----------------------|---------|
| ① 明治安田生命             | 63,972               | 65,633  |
| 一般勘定                 | 59,675               | 60,082  |
| 特別勘定                 | 4,297                | 5,550   |
| ② 明治ドリスナー・アセットマネジメント | 18,084               | 18,908  |
| ③ 安田投信投資顧問           | 3,283                | 3,645   |
| 合計（①+②+③）            | 85,341               | 88,186  |

#### <年換算保険料>

保険料の払い方には、毎月支払う月払いの他に、年払いや契約当初に全額を一括して支払う一時払いなどがあります。また、契約期間の全期間にわたって支払う方法や一定期間で支払いを終えてしまう方法があります。年換算保険料は、そうした支払い方の違いを調整し、契約期間中に平均して支払うと仮定した場合に、生命保険会社が保険契約から1年間にどのくらいの保険料収入を得ているかを示しています。※出典：（社）生命保険協会発行「生命保険会社のディスクロージャー虎の巻」

### 3. 資産・財務の健全性の状況および健全性向上に向けた取組み

#### (1) 健全性指標の状況（ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額）

- ・ ソルベンシー・マージン比率は、1,091.5%と、予測を超えたリスクにも十分対応できる支払余力を確保。
- ・ 実質純資産額は3兆1,947億円、一般勘定資産対比で13.8%と健全な経営を維持していくための十分な純資産額を確保。

#### ○ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額

(単位：億円、%)

|               | 平成20年度<br>第3四半期会計期間末 | 平成19年度末 |
|---------------|----------------------|---------|
| ソルベンシー・マージン比率 | 1,091.5              | 1,314.1 |
| 実質純資産額        | 31,947               | 45,384  |
| 一般勘定資産に対する比率  | 13.8                 | 18.5    |

(注)平成20年度第3四半期会計期間末は、法令等に準じて当社が合理的と判断する方法で算出しています。

#### <ソルベンシー・マージン比率>

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる支払余力を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。

この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。

#### <実質純資産額>

実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。

## (2) 有価証券評価損および含み益の状況

- 資産・財務の健全性向上のため、時価が帳簿価額の30%以上下落した株式について、すべて減損処理を実施し、国内株式の評価損を1,910億円計上。
- 株価の変動リスクに対する対応力はさらに向上し、当社が保有する株式の含み損益がゼロとなる水準（ゼロ水準）は、日経平均株価ベース6,900円程度。
- 一般勘定資産全体の含み益は1兆2,869億円と十分な企業体力を堅持。

### ○有価証券評価損

(単位：億円)

|         | 平成20年度<br>第3四半期累計期間 |
|---------|---------------------|
| 有価証券評価損 | 2,882               |
| うち公社債   | 3                   |
| うち国内株式  | 1,910               |
| うち外国証券  | 928                 |

時価が帳簿価額の50%以上下落した株式の評価損600億円強に加え、時価が帳簿価額の30%以上50%未満下落した株式の評価損1,300億円弱についても、すべて減損処理を実施。

### ○時価のある有価証券の含み損益

(単位：億円)

|                                | 平成20年度<br>第3四半期会計期間末 | 平成19年度末 |
|--------------------------------|----------------------|---------|
| 時価のある有価証券の含み損益 <sup>(注1)</sup> | 7,949                | 19,062  |
| うち公社債                          | 3,998                | 2,467   |
| うち株式                           | 4,529                | 15,212  |
| うち外国証券                         | -629                 | 1,260   |

(注1. 買入金銭債権等を含む)

### ○一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

|                          | 平成20年度<br>第3四半期会計期間末 | 平成19年度末 |
|--------------------------|----------------------|---------|
| 一般勘定資産全体の含み損益            | 12,869               | 23,954  |
| うち有価証券 <sup>(注1、2)</sup> | 7,776                | 18,914  |
| うち土地 <sup>(注3)</sup>     | 5,074                | 5,115   |

(注1. 時価のある有価証券に加え、時価のない有価証券(外貨建の子会社株式及び関連会社株式等)を為替評価した場合の含み損益相当額を記載しています。

2. 有価証券には、CD(譲渡性預金)等、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めています。

3. 平成11年度末(明治生命)および平成12年度末(安田生命)に実施した土地の再評価による「再評価差額」を含めています。また、借地権を含めています。

### ○国内株式含み損益ゼロ水準

|  | 平成20年度<br>第3四半期会計期間末 |
|--|----------------------|
| 仮に当社ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動するとした場合 |                      |
| 日経平均株価ベース                              | 6,900円程度             |
| TOPIX ベース                              | 670円/円程度             |
| 株価指数と当社ポートフォリオの過去の連動性を用いて算出した場合        |                      |
| 日経平均株価ベース                              | 6,600円程度             |
| TOPIX ベース                              | 650円/円程度             |

ゼロ水準は6,900円程度(日経平均株価ベース)と平成20年度第2四半期(上半期)末から600円程度改善し、健全性は一段と向上。

### ◆減損処理と危険準備金・価格変動準備金の活用◆

当社はこれまで、将来の保険金支払いなどを確実にこなすため、今回のような運用環境の大幅な悪化に伴う運用資産の価格変動リスクや、運用利回りが予定利率を下回るリスク等に備えて、基金や価格変動準備金、危険準備金等を着実に積み立て、財務健全性の維持・向上に努めてきました。

その結果、基金や危険準備金などの内部留保等および責任準備金の追加積立の総額は、平成20年度第2四半期(上半期)末で1兆9,035億円でしたが、今般の減損処理の実施に伴い、第3四半期では、これまでリスク対応のために積み立ててきた危険準備金1,696億円(法定積立限度に連動する部分を含め全体では1,775億円)、価格変動準備金823億円、合計2,519億円(同2,599億円)を活用しました。さまざまなリスクに対応するための内部留保等については、P6をご覧ください。

### (3) さまざまなリスクに対応するための内部留保等

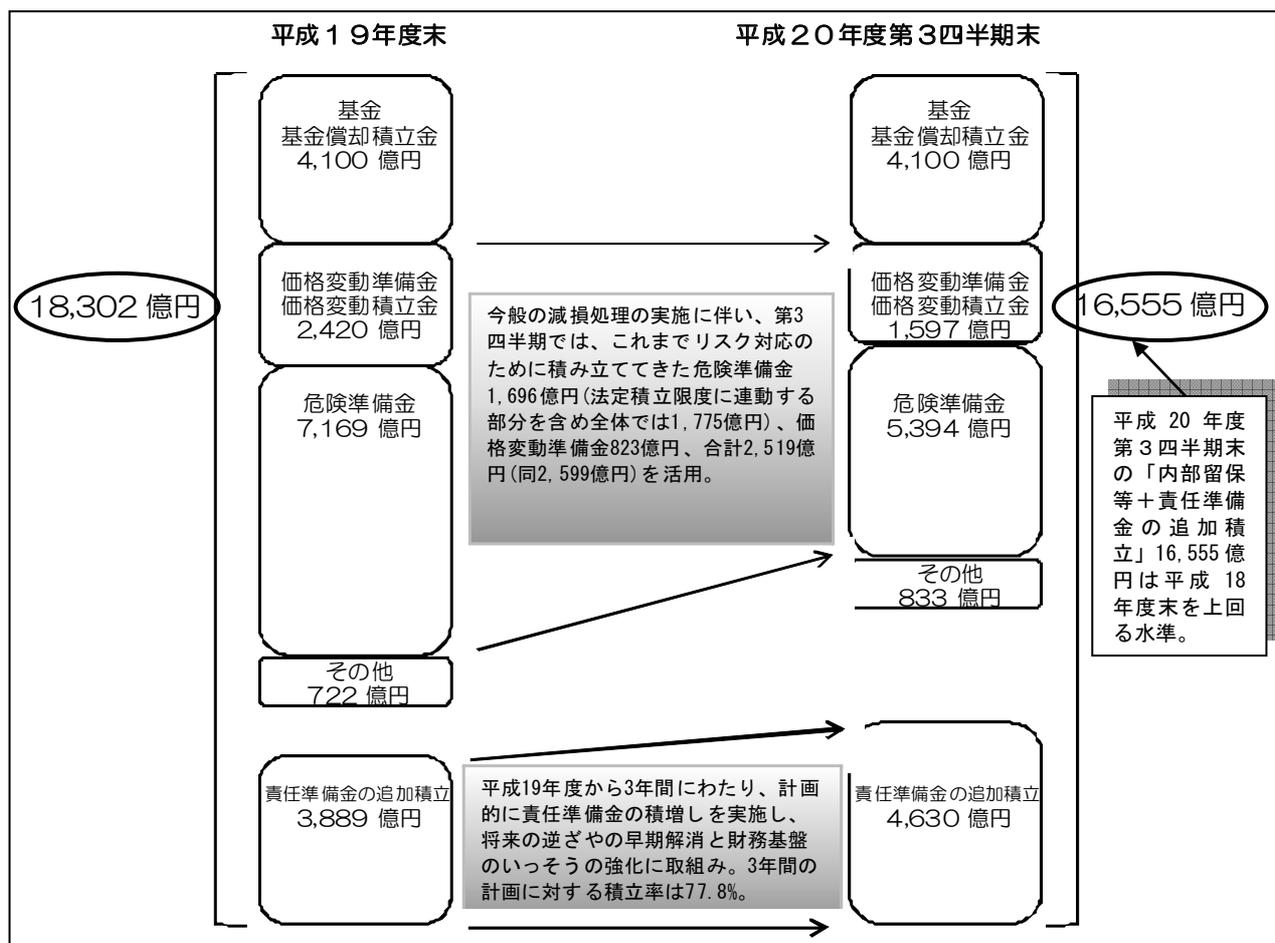
- 健全性の高い経営基盤を構築するため、効率化への取組みとともに、さまざまなリスクに対応できるよう、危険準備金・価格変動準備金等の内部留保の積増し等により自己資本の充実を推進。
- 今般の減損処理の実施に伴い、危険準備金および価格変動準備金の合計で2,519億円(法定積立限度に連動する部分を含め全体では2,599億円)を活用するものの、基金や危険準備金などの「内部留保等+責任準備金の追加積立」の総額は、1兆6,555億円と引き続き高い水準。

#### ○さまざまなリスクに対応するための内部留保等

(単位：億円)

|                  | 平成20年度<br>第3四半期会計期間末 | 平成19年度末 |
|------------------|----------------------|---------|
| 内部留保等            | 11,925               | 14,412  |
| うち基金・基金償却積立金     | 4,100                | 4,100   |
| うち基金償却準備金        | 412                  | 300     |
| うち価格変動積立金        | 297                  | 297     |
| うち危険準備金          | 5,394                | 7,169   |
| うち価格変動準備金        | 1,299                | 2,123   |
| <ご参考>            |                      |         |
| 責任準備金の追加積立       | 4,630                | 3,889   |
| 内部留保等+責任準備金の追加積立 | 16,555               | 18,302  |

(注)基金償却後、剰余金処分後の数値。



以上

# <ご参考> 当社の健全性の状況(まとめ)

これまでの内部留保の積増しにより、今般の株価下落の影響にも的確に対応！  
経常利益は306億円。第3四半期純剰余は955億円。

引き続きご安心いただける  
堅固な財務基盤

## 内部留保の充実

当社はこれまで、健全性の高い経営基盤を構築するため、通常想定できる範囲を超えた保険金の支払いや大幅な運用環境の悪化等に備え、危険準備金・価格変動準備金等の内部留保の積増し等により自己資本の充実を推進してきました。

## 株価下落の影響

当社では、時価が帳簿価額の30%以上下落した株式等の評価損について、すべて減損処理を実施しました。これによる評価損の計上等に伴い、危険準備金および価格変動準備金を、合計で2,519億円活用しました。

## 国内株式含み損益ゼロ水準

**6,900円程度**  
上半期(7,500円程度)より600円程度低下

仮に、当社の有価証券ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動とした場合、当社が保有する株式の含み損益がゼロとなる水準(ゼロ水準)は、日経平均株価ベース6,900円程度となっています。

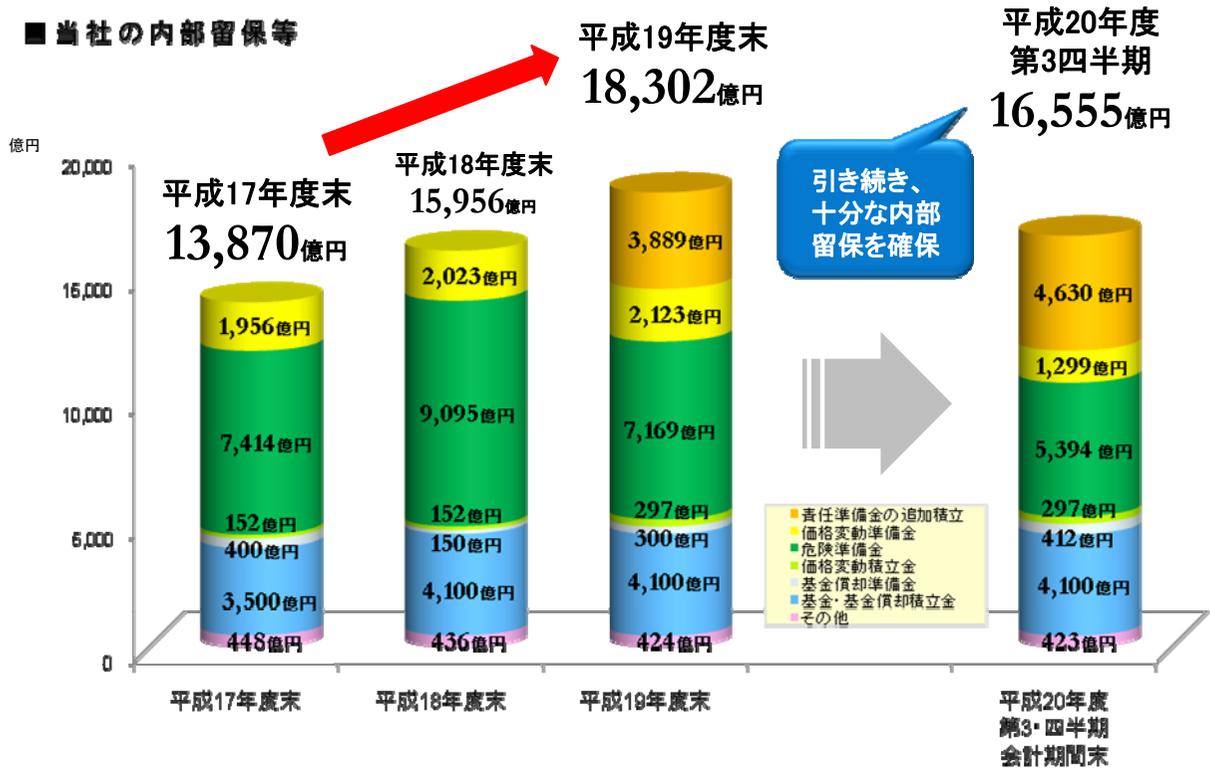
## 含み損益(一般勘定)

**1兆2,869億円**  
含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額(取得価額)との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。一般勘定資産全体の含み益は1兆2,869億円と十分な企業体力を堅持しています。

## ソルベンシー・マージン比率

**1,091.5%**  
ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる支払余力を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。  
第3四半期のソルベンシー・マージン比率は1,091.5%と十分な支払余力を確保しています。

■ 当社の内部留保等



※当資料は、「平成20年度第3四半期報告の概要」とあわせてご覧ください。